

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年4月3日

予報期間：4月5日～5月4日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

北日本では、期間の前半は気温がかなり高くなる所があるでしょう。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

全般1か月予報

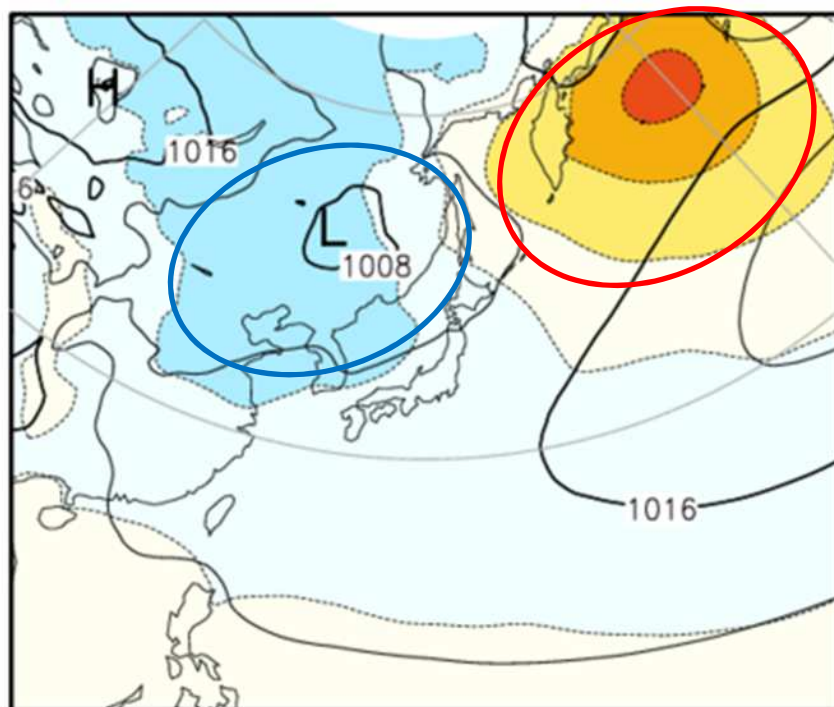
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:20:70	30:30:40	50:30:20	
	太平洋側		30:30:40	50:30:20	
東日本	日本海側	10:40:50	40:40:20	30:40:30	
	太平洋側		30:40:30	30:30:40	
西日本	日本海側	20:40:40	40:40:20	30:30:40	
	太平洋側		40:40:20	30:30:40	
沖縄・奄美		30:40:30	30:30:40	40:40:20	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:10:80	10:20:70	20:30:50
東日本	10:30:60	20:40:40	20:40:40
西日本	20:40:40	20:40:40	30:30:40
沖縄・奄美	30:50:20	30:50:20	30:30:40

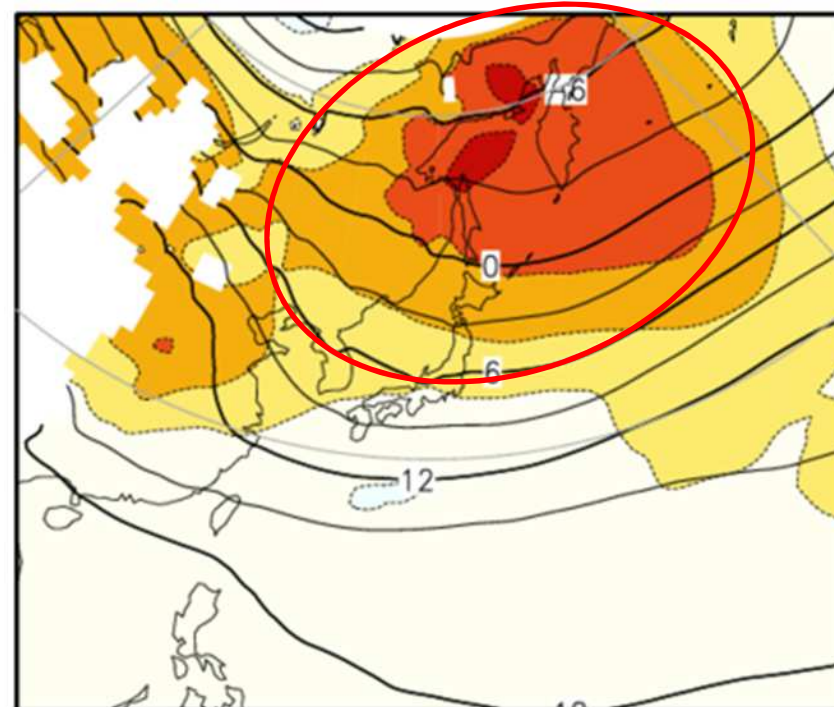
全般予報のポイント

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は、北・東日本で高く、西日本で平年並か高いでしょう。特に、期間の前半は北日本でかなり高くなる所があるでしょう。
- ・低気圧や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は、北日本で少ないでしょう。
- ・低気圧や前線、湿った空気の影響を受けにくい時期があるため、向こう1か月の降水量は、東日本日本海側と西日本で平年並か少ないでしょう。
- ・前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は、沖縄・奄美で平年並か少ないでしょう。

海面気圧(1か月)



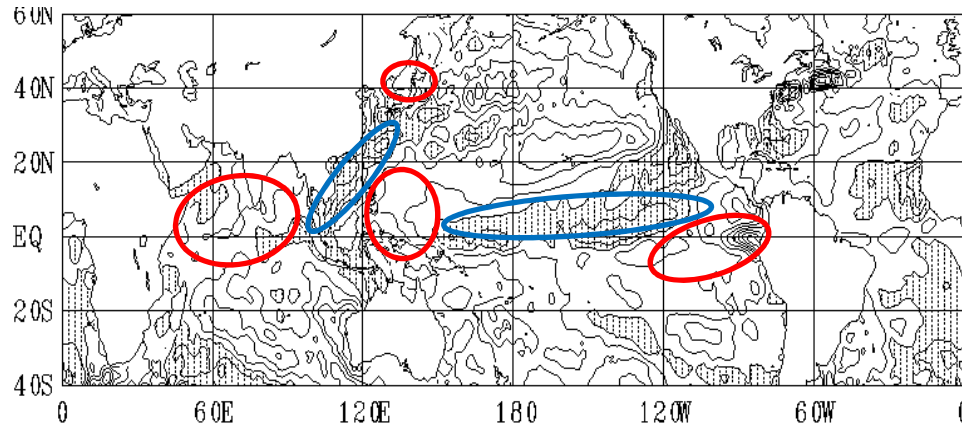
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の上空約1500mの気温(右図)は、カムチャツカ半島を中心に高く、北・東日本を中心に暖かい空気に覆われやすいでしょう。

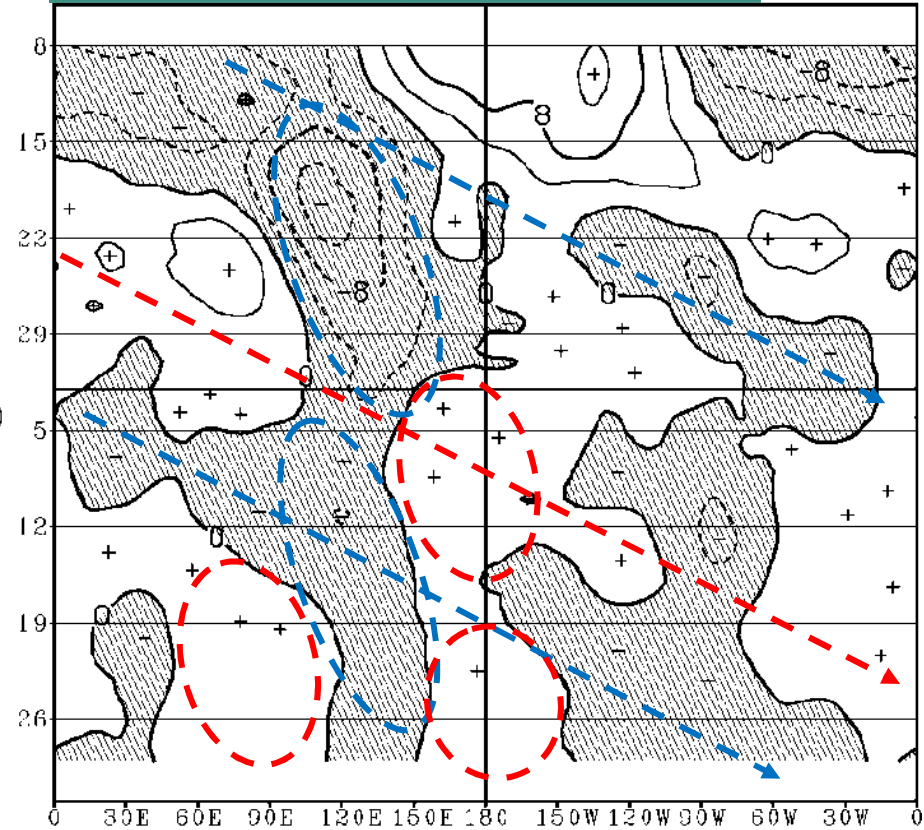
海面気圧(左図)は、カムチャツカの東付近で平年より高く、中国東北区付近を中心に平年より低いため、北日本では低気圧や湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。沖縄・奄美でも、前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。偏西風が平年より南を流れ、南北の温度差が小さく、低気圧が発達しにくいいため、西日本を中心に低気圧や前線、湿った空気の影響を受けにくい時期があるでしょう。

SST偏差



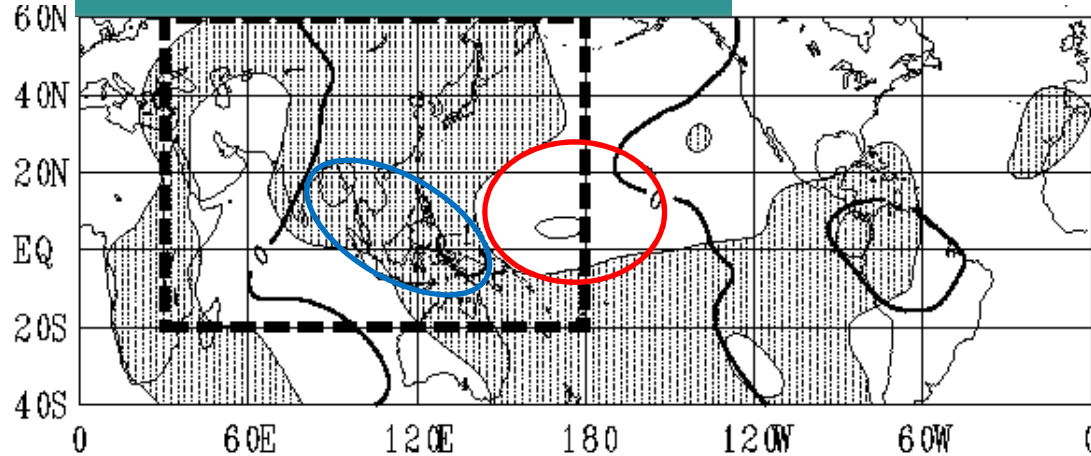
熱帯域では、インド洋西部とニューギニア島周辺、太平洋東部で正偏差、太平洋中部を中心に負偏差。
日本付近では、日本の南から南シナ海にかけて負偏差、日本海北部から日本の東にかけて正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



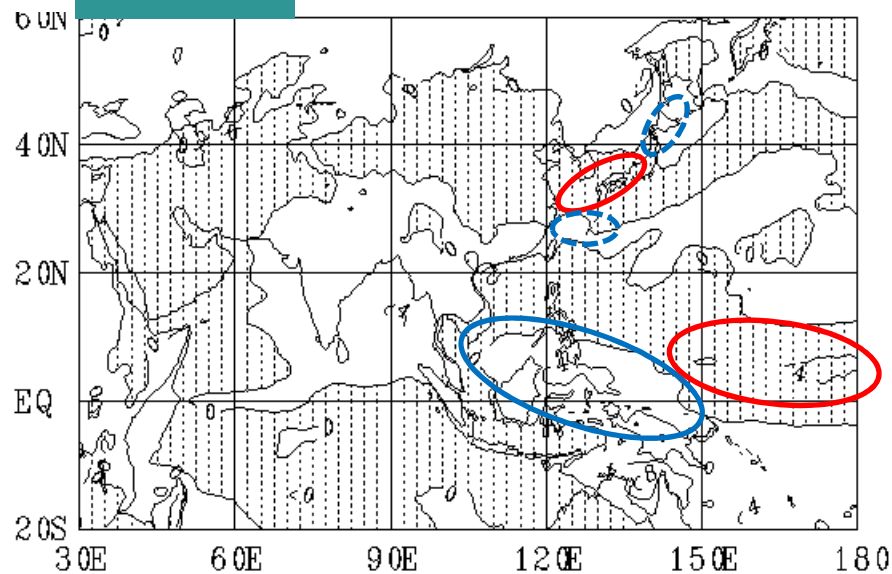
インドネシア付近では、対流活発だが偏差は小さい。また、あまり明瞭でないがMJOの東進が見られ、インド洋では期間の前半は弱い対流活発だが、期間の後半は対流不活発となる。

200hPa速度ポテンシャル



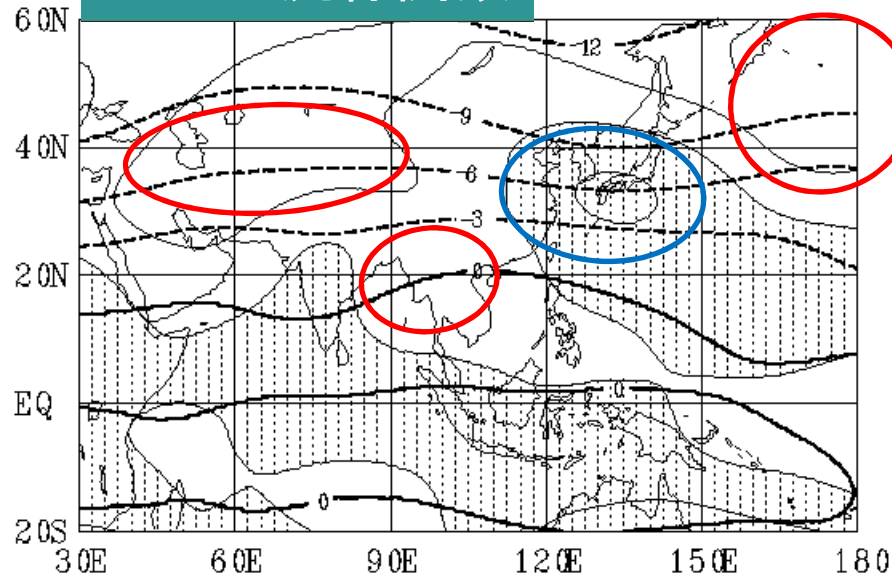
ベンガル湾からインドネシア付近で上層発散偏差、日付変更線付近で上層収束偏差だが、全体的に偏差は小さい。

降水量



インドネシア付近で多雨偏差、日付変更線の西で少雨偏差。日本付近は、東日本日本海側と西日本を中心に少雨偏差、北日本と沖縄・奄美付近ではやや多雨偏差。

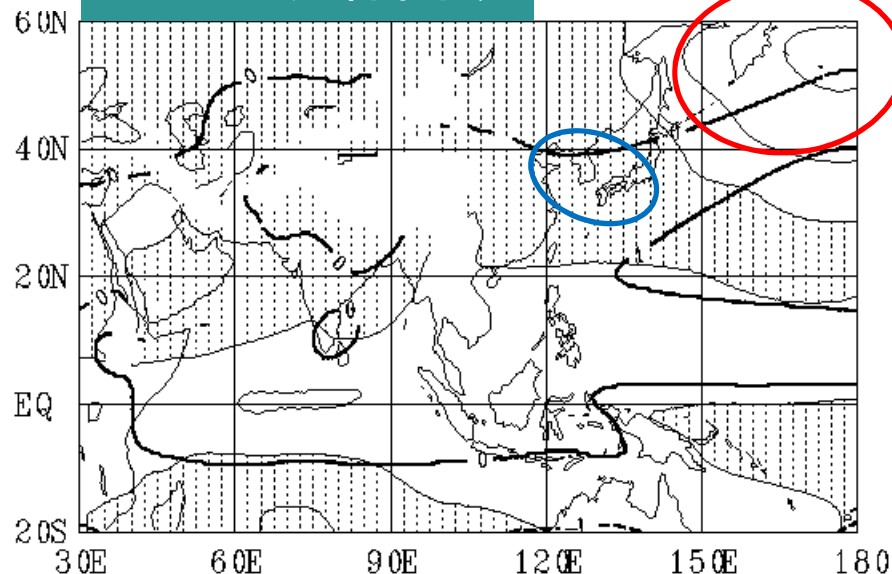
200hPa流線関数



亜熱帯ジェット気流沿いの波東伝播が熱帯の対流活動の影響も加わり明瞭で、期間の前半を中心に寒帯前線ジェット気流沿いの波東伝播の影響も重なり、西日本付近で低気圧性循環偏差、カムチャツカの東で高気圧性循環偏差となって勢力を維持。

また、期間の前半を中心に亜熱帯ジェット気流は日本付近で平年に比べ南を流れやすい。

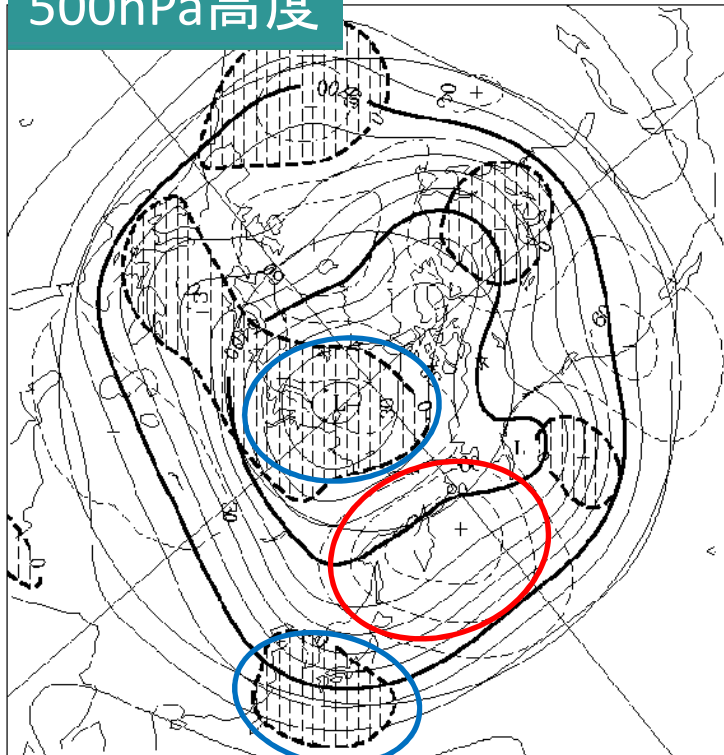
850hPa流線関数



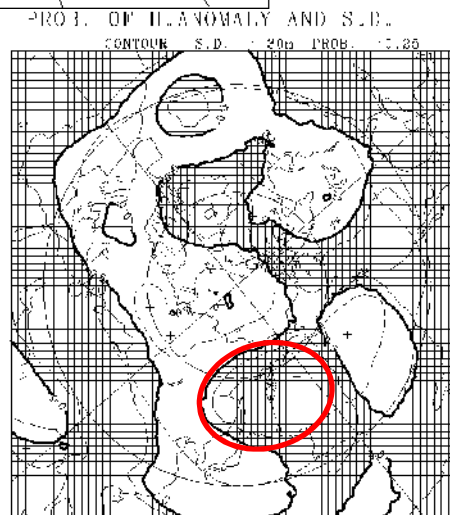
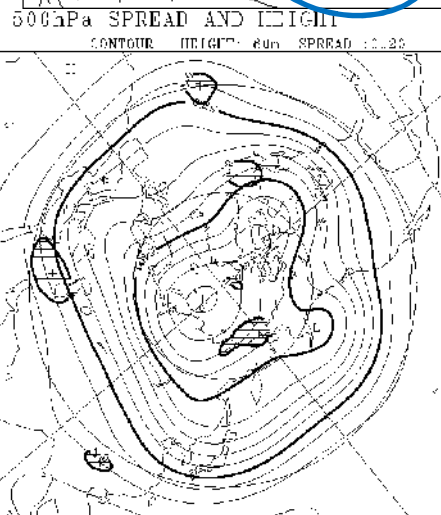
朝鮮半島から日本付近では低気圧性循環偏差、カムチャツカの東では高気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。

北日本では、暖かく湿った空気が流れ込みやすい。

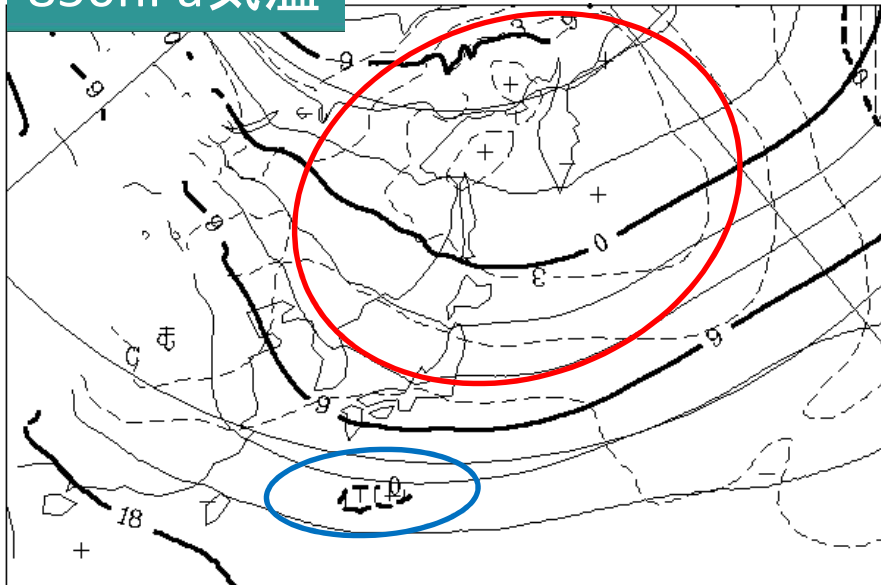
500hPa高度



カムチャツカ半島付近で強い正偏差。一方、西日本付近から日本の南で負偏差。極渦は、カムチャツカ半島付近の正偏差とともにほとんど停滞。
北日本は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。また、北日本は西谷傾向。

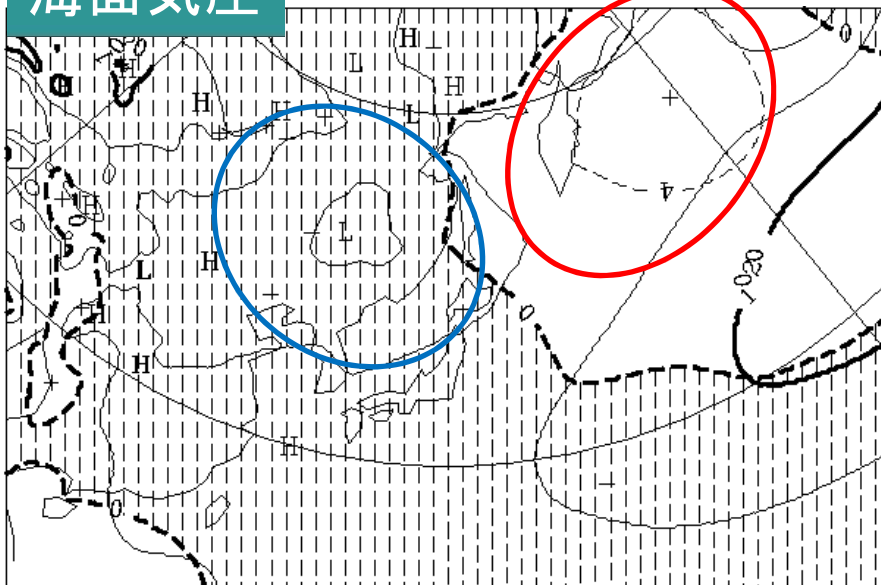


850hPa気温



カムチャツカ半島を中心に正偏差が強く、北・東日本を中心に暖かい空気に覆われやすい。一方、日本の南では負偏差域があり、南北の温度差が小さい。

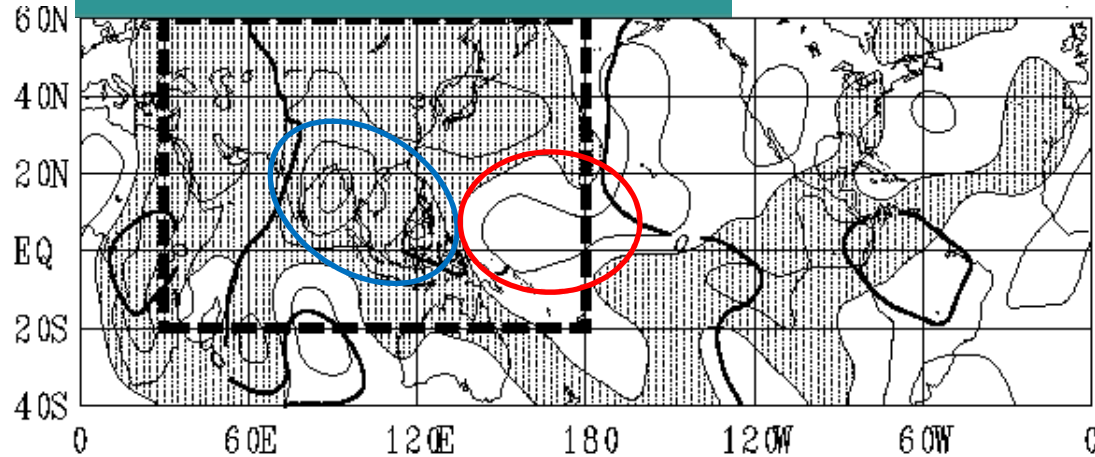
海面気圧



カムチャツカの東付近では正偏差の一方、中国東北区付近では低気圧を予測。北日本では低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすい時期がある。一方、亜熱帯ジェット気流が平年より南偏し、南北の温度差が小さいため、低気圧が発達しにくい。このため、西日本を中心に、低気圧や前線の影響を受けにくい時期がある。

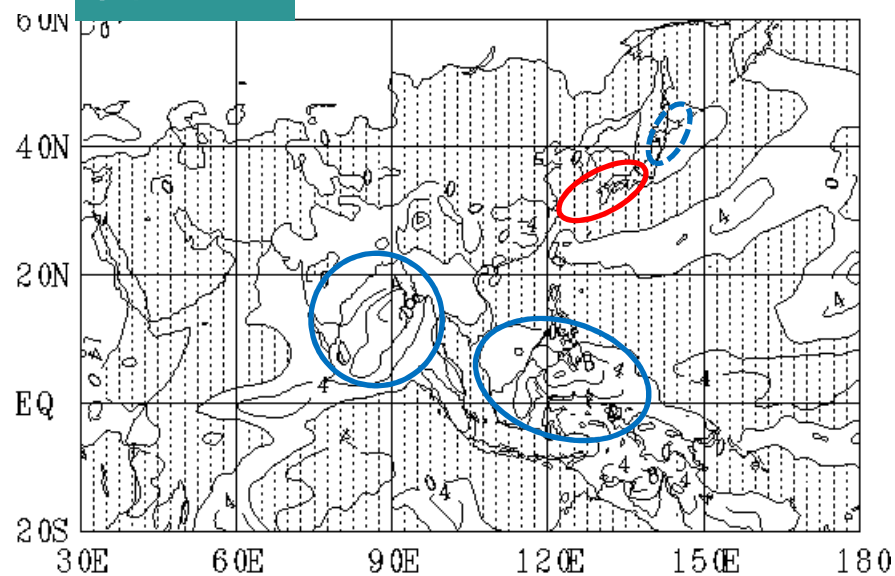
沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響を受けやすい時期がある。

200hPa速度ポテンシャル



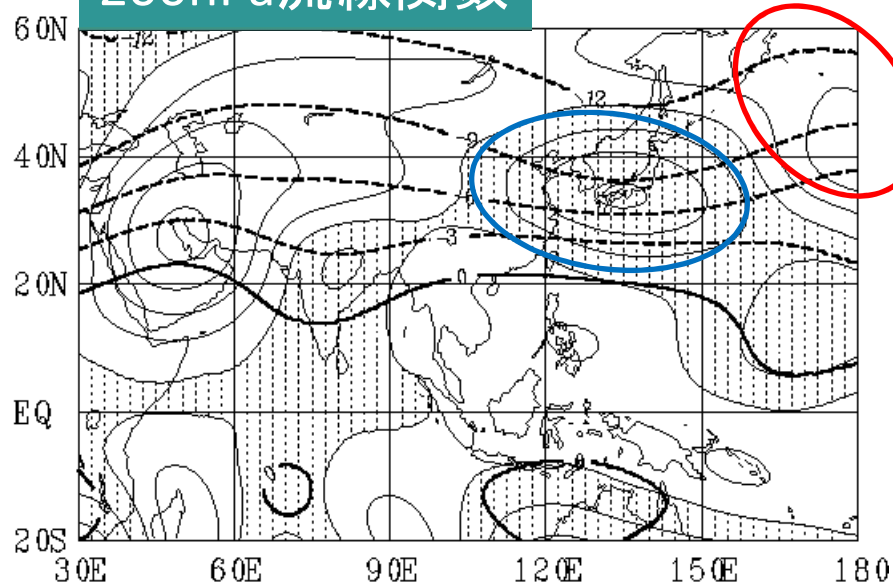
ベンガル湾付近からインドネシア付近で上層発散偏差。
日付変更線付近で上層収束偏差。

降水量



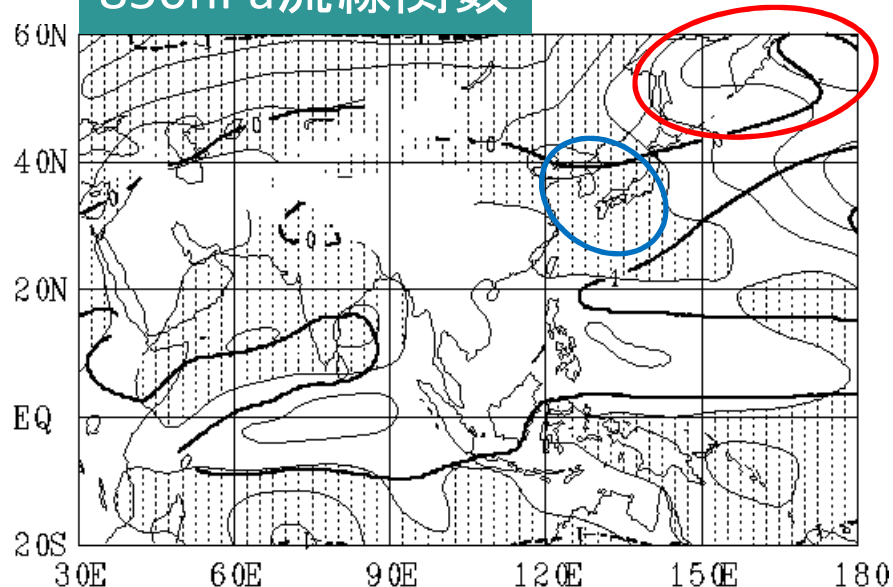
ベンガル湾付近からインドネシア付近で多雨偏差。
日本付近は、北日本でやや多雨偏差、東日本日本海側と西日本で少雨偏差。

200hPa流線関数



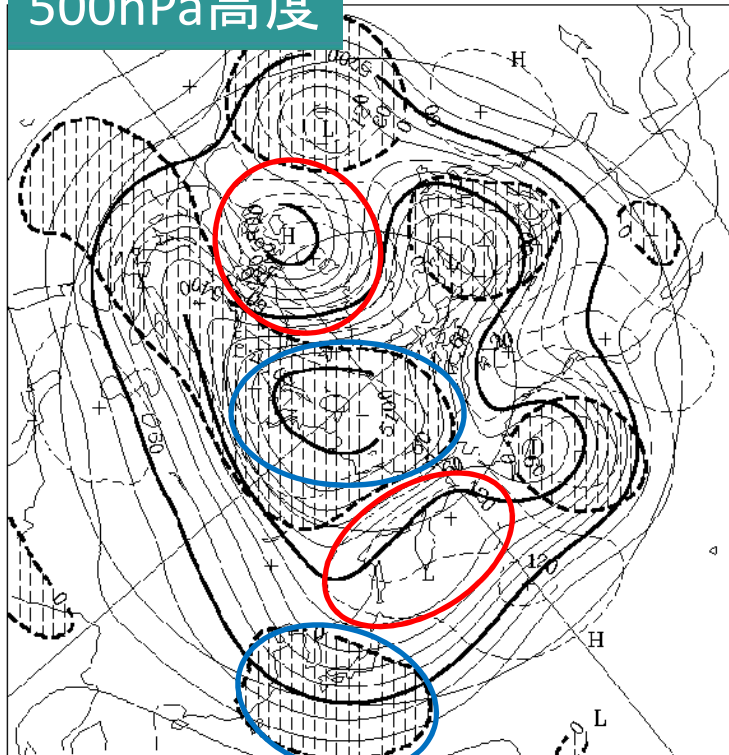
カムチャツカの東から日本のはるか東で高気圧性循環偏差、日本付近を中心に低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



カムチャツカ半島付近では高気圧性循環偏差、朝鮮半島付近から西日本付近にかけて低気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。北日本では、太平洋側を中心に湿った空気の影響を受けやすい。

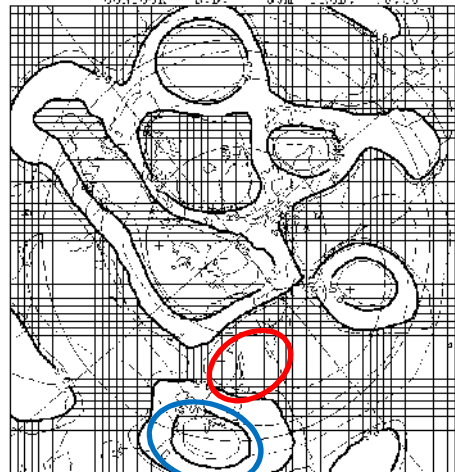
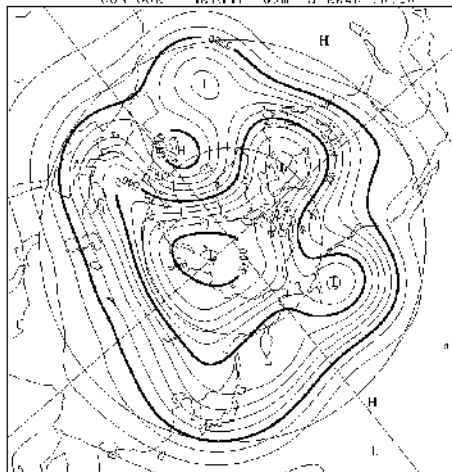
500hPa高度



500hPa SPREAD AND HEIGHT
CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

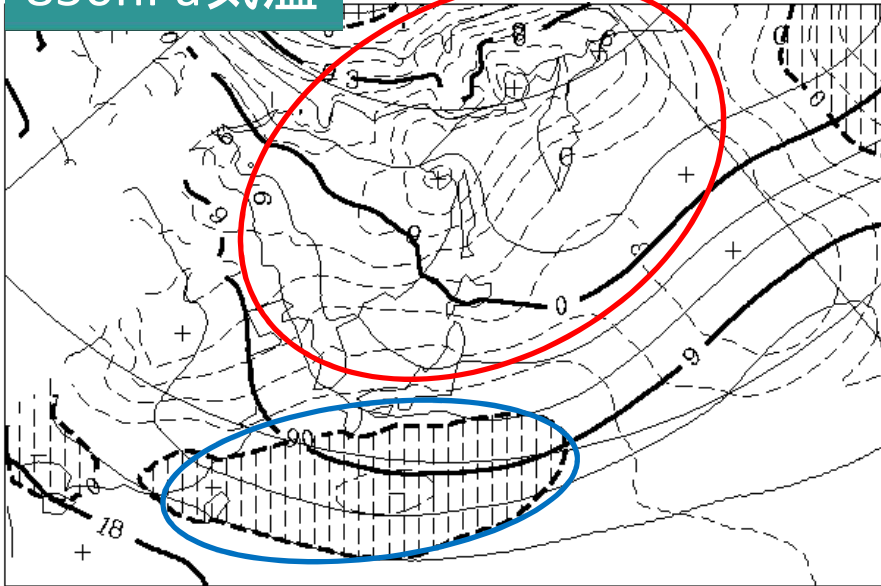
PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 33m PROB.: 0.25



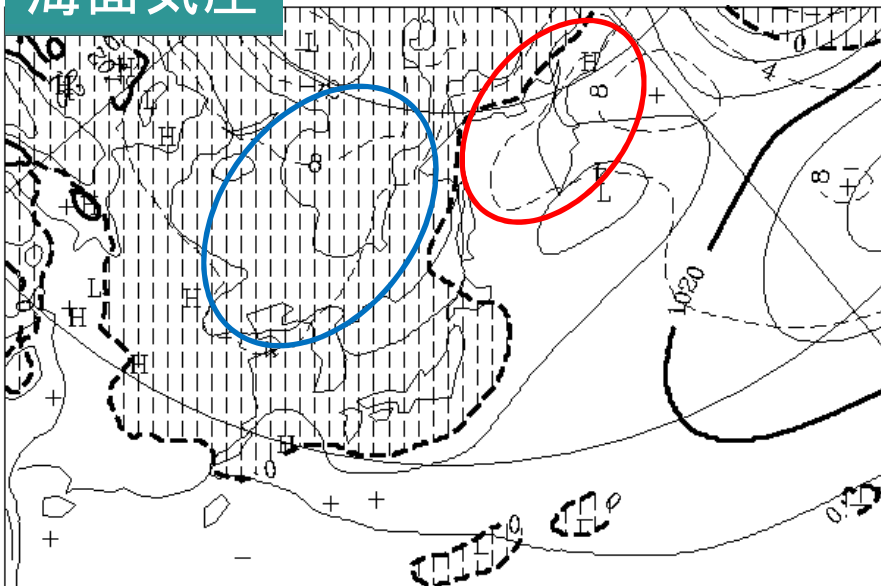
カムチャツカ半島付近で強い正偏差。一方、東シナ海から日本の南で負偏差。
北大西洋にはブロッキング高気圧がある。極渦はカムチャツカ半島付近の正偏差とともにほとんど停滞。
北日本の一部が正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる一方で、沖縄・奄美を中心に負の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

850hPa気温



日本の北で正偏差が強く、北・東日本を中心に暖かい空気に覆われやすい。一方、日本の南では負偏差で、南北の温度差が小さい。

海面気圧



カムチャツカの東付近では正偏差の一方、中国東北区付近では低気圧を予測。北日本では低気圧や湿った空気の影響を受ける時期がある。一方、亜熱帯ジェット気流が平年より南偏し、南北の温度差が小さいため、低気圧が発達しにくい。このため、西日本を中心に低気圧や前線の影響を受けにくい。

想定される天候

北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

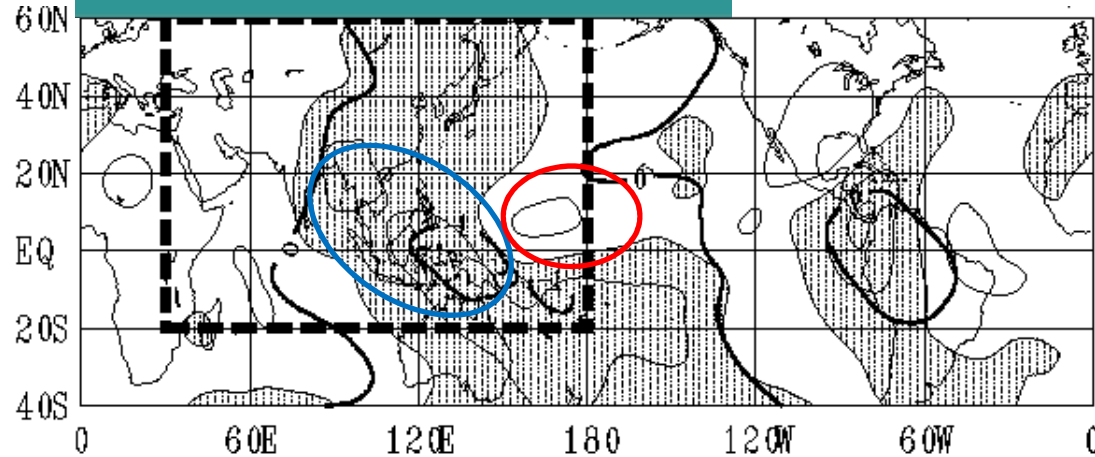
<気温>

- ・暖かい空気に覆われやすいため、北・東日本では高く、西日本では平年並か高い。特に、北日本では気温がかなり高くなる見込み。
- ・沖縄・奄美では平年並。

<天候>

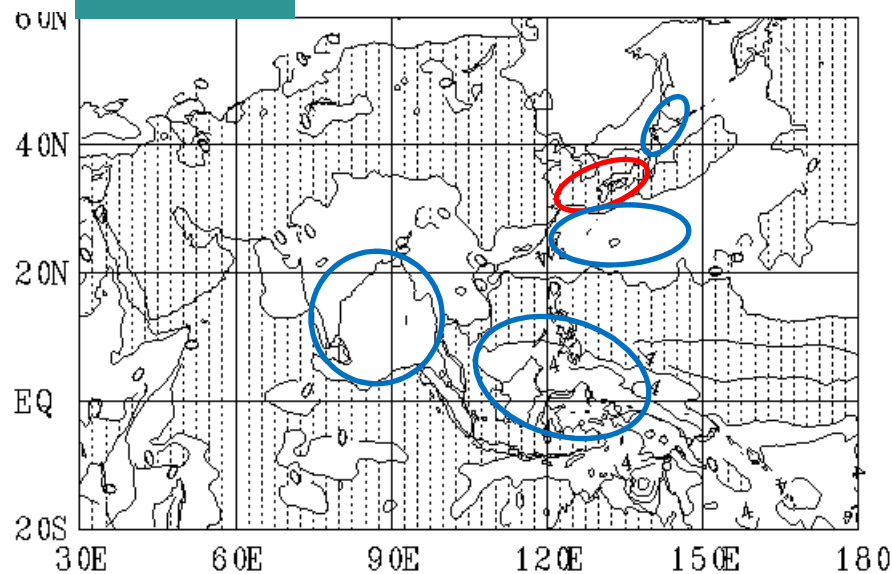
- ・北日本では、低気圧や湿った空気の影響を受けやすいが、降水量は太平洋側ではやや多雨、日本海側ではほぼ平年並。
- ・東日本日本海側と西日本では、偏西風が南偏し、気温も南北差が小さいことから、低気圧が発達しにくい見込み。
- ・沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響をやや受けやすく、やや寡照。

200hPa速度ポテンシャル



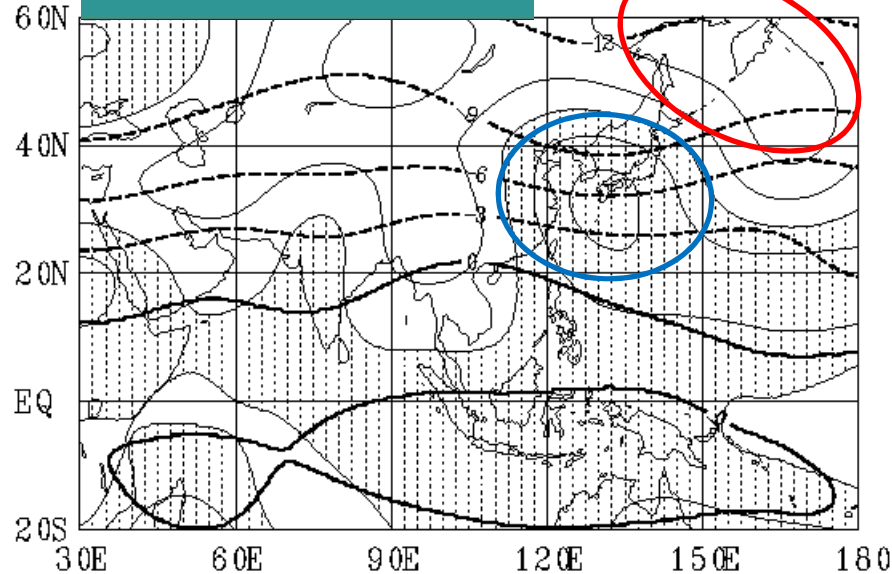
ベンガル湾付近からインドネシア付近で上層発散偏差。
日付変更線付近で上層収束偏差。

降水量



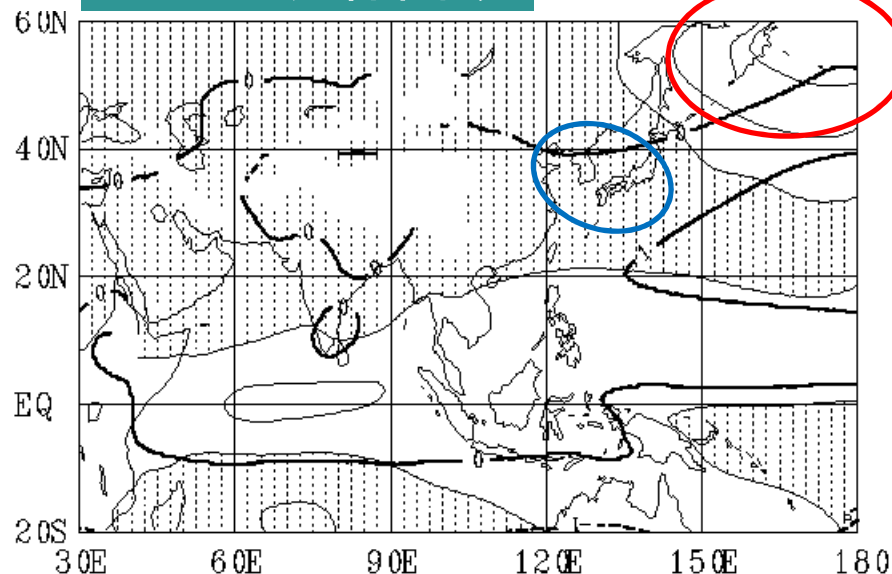
ベンガル湾付近からインドネシア付近で多雨偏差。
日本付近は、北日本で多雨偏差、沖縄・奄美付近から日本の南で多雨偏差、東日本日本海側と西日本で少雨偏差。

200hPa流線関数



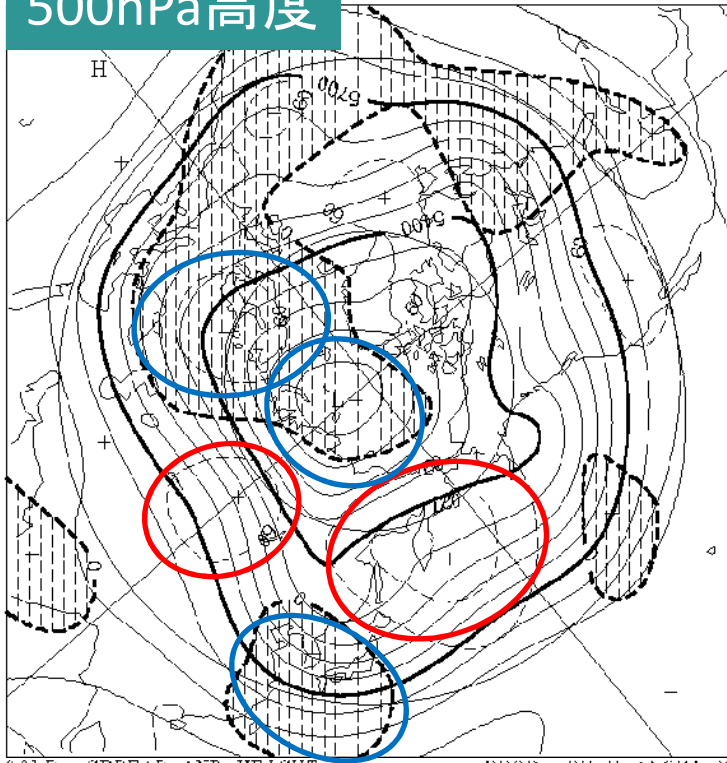
西日本付近で低気圧性循環偏差、カムチャツカ半島付近で高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



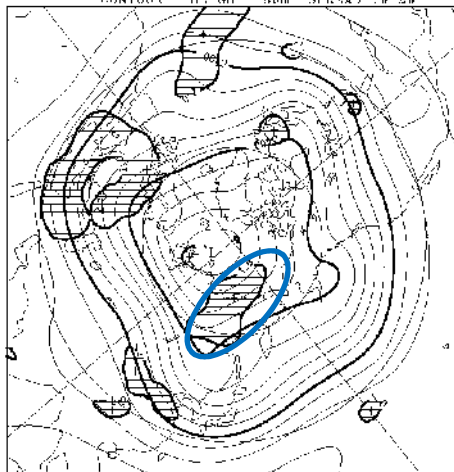
朝鮮半島から日本付近では低気圧性循環偏差、カムチャツカの東では高気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。
北日本では、暖かく湿った空気が流れ込みやすい。

500hPa高度

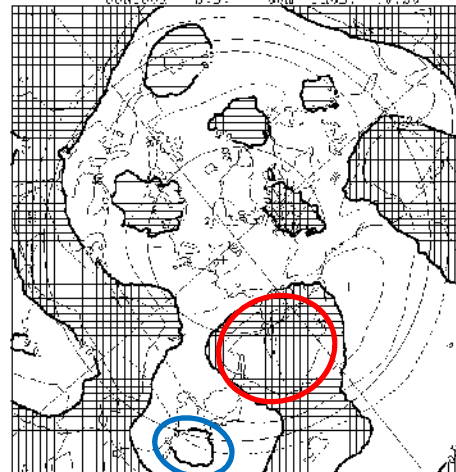


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.



CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 0.20



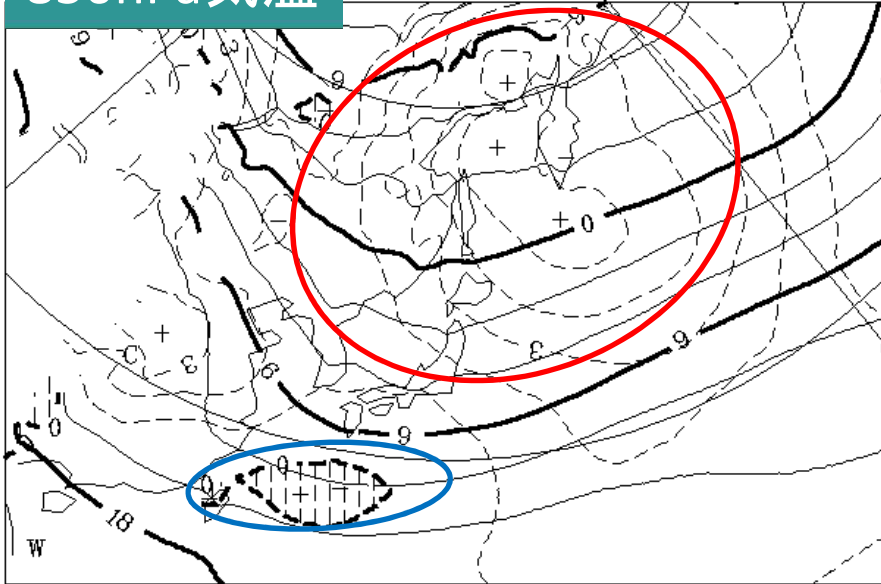
CONTOUR S.D. 300 200 0.25

1週目に見られた北大西洋のブロッキング高気圧の弱まりに伴う寒帯前線ジェット気流沿いの波束伝播が明瞭で、亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播の影響も重なり、東シナ海から日本の南で負偏差。一方、カムチャツカ半島付近で強い正偏差。極渦は、カムチャツカ半島付近の正偏差とともにほとんど停滞。日本の北でややスプレッドが大きい。

北日本の一部が正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる一方で、沖縄・奄美を中心に負の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

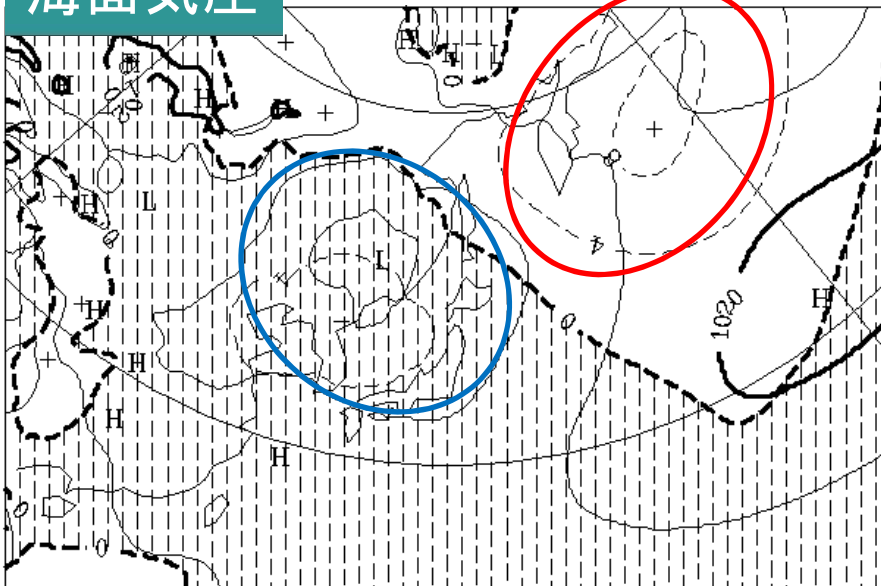
また、北日本は西谷傾向となる。

850hPa気温



カムチャツカ半島を中心に正偏差が強く、北・東日本を中心に暖かい空気に覆われやすい。沖縄・奄美付近では負偏差だが、偏差は小さい。

海面気圧



上層の循環パターンに対応して、カムチャツカの東付近では正偏差の一方、中国東北区付近では低気圧を予測。北日本では低気圧や湿った空気の影響を受けやすい。一方、亜熱帯ジェット気流が平年より南偏し、南北の温度差が小さいため、低気圧が発達しにくい。このため、西日本を中心に低気圧や前線、湿った空気の影響を受けにくい。高気圧の南縁にあたる沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響を受けやすい。

想定される天候

北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

<気温>

・暖かい空気に覆われやすいため、北日本では高く、東・西日本では平年並か高くなる。特に、北日本では気温がかなり高くなる所がある。

・沖縄・奄美では平年並。

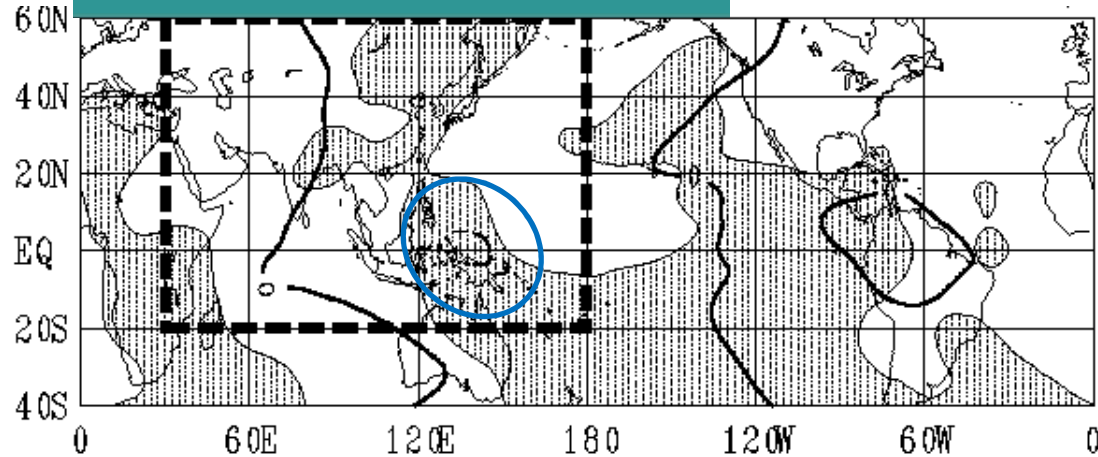
<天候>

・北日本では、低気圧や湿った空気の影響を受けやすいが、降水量はやや多雨。

・東日本日本海側と西日本では、偏西風が南偏し、気温も南北差が小さいことから、低気圧が発達しにくい見込み。

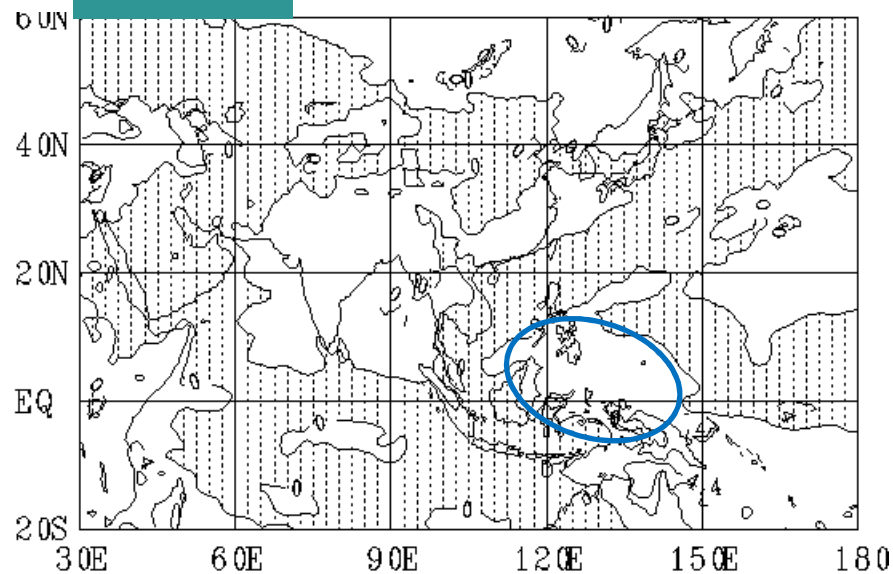
・沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響を受けやすい。

200hPa速度ポテンシャル



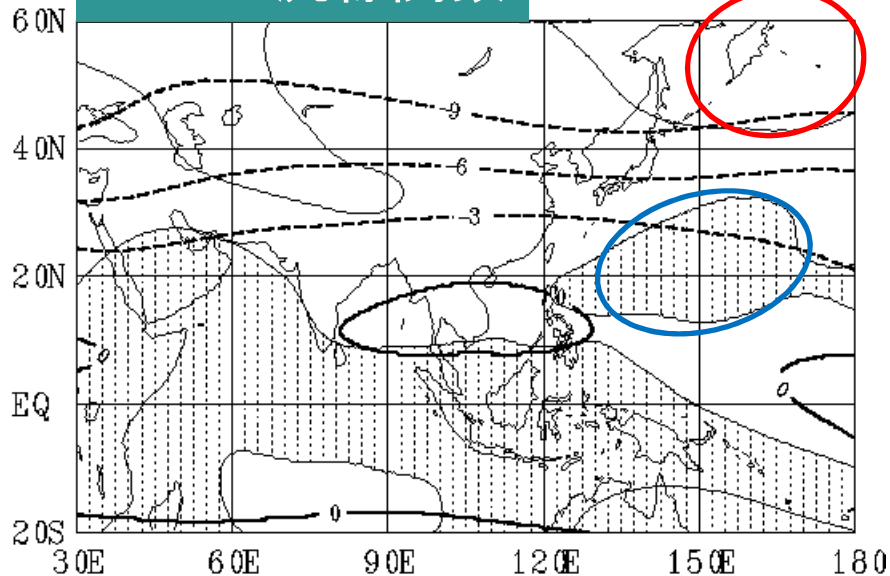
インドネシア付近で上層発散
偏差だが、シグナルは小さい。

降水量



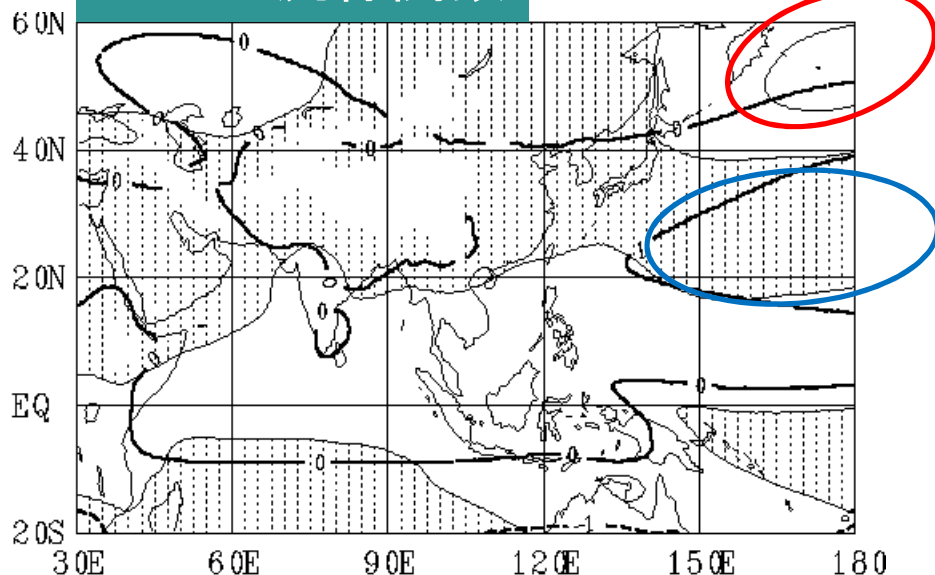
インドネシア付近で多雨偏差。
日本付近は偏差が小さい。

200hPa流線関数



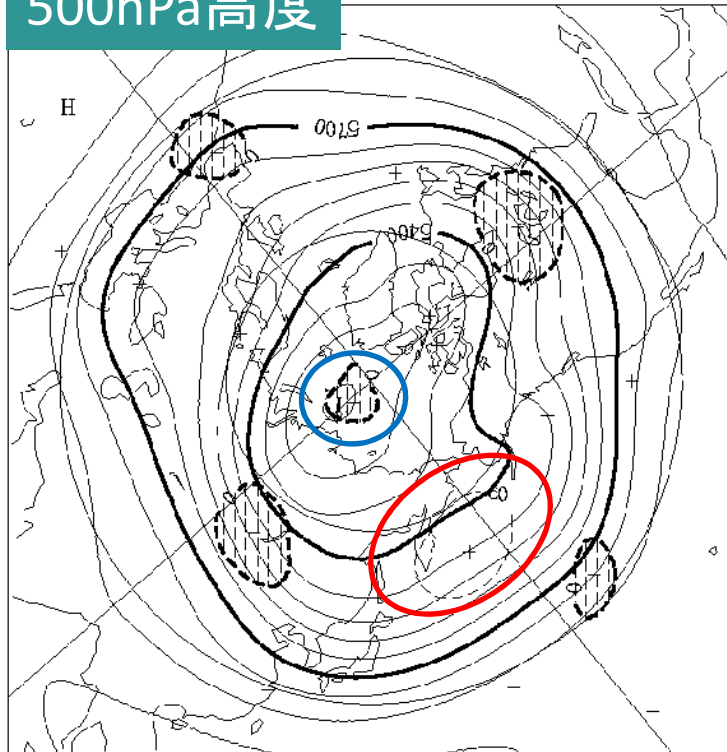
カムチャツカの東で高気圧性循環偏差、日本の南東で低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



カムチャツカの東で高気圧性循環偏差、日本の南東から東で低気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。

500hPa高度



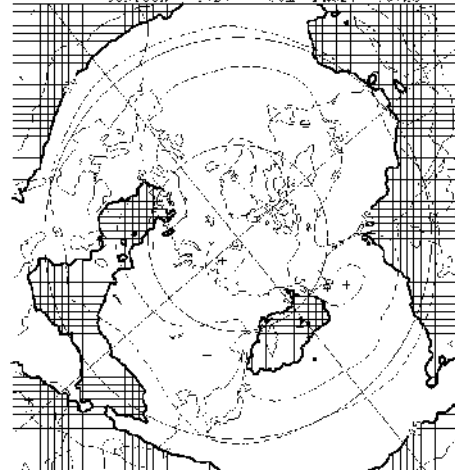
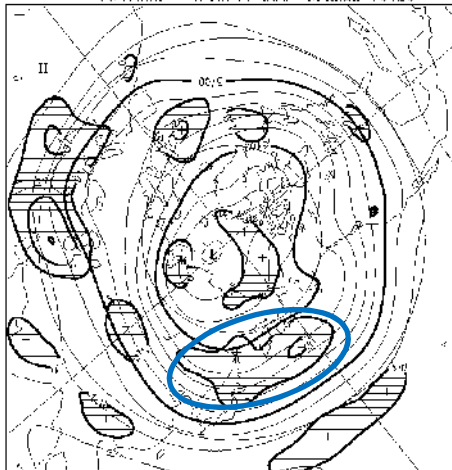
カムチャツカの東で正偏差。極渦は、カムチャツカの東の正偏差とともにほとんど停滞。
寒帯前線ジェット気流に沿って日本の北で東西に広くスプレッドが大きく、波列の予測に不確実性がある。
北日本は西谷傾向。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

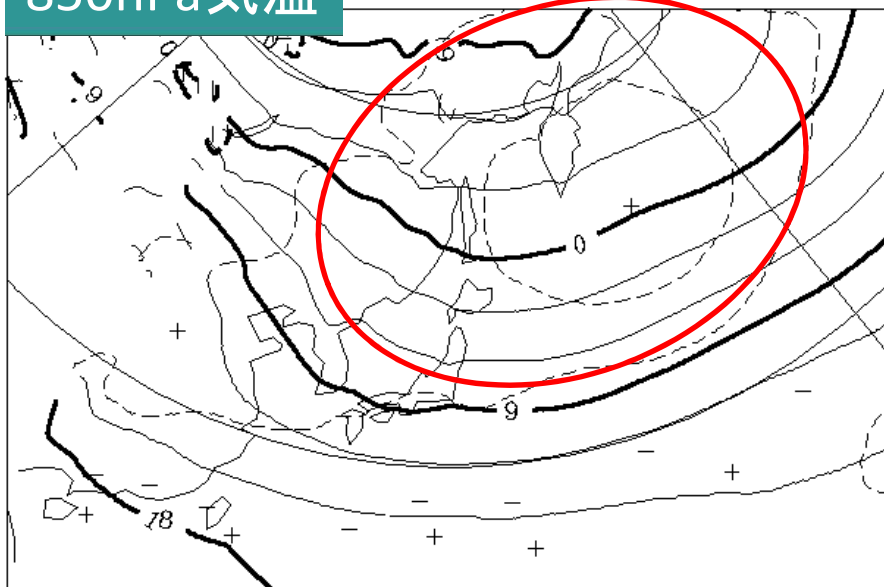
PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

CONTOUR: S.D.: 20m PROB: 0.25

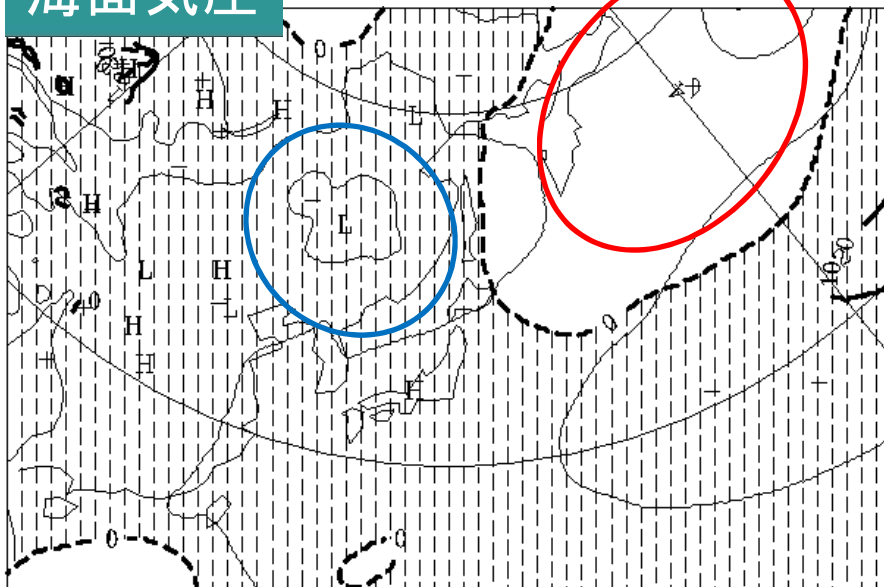


850hPa気温



カムチャツカ半島を中心に正偏差で、北・東日本を中心に暖かい空気に覆われやすい。

海面気圧



カムチャツカの東付近では正偏差の一方、中国東北区付近では低気圧を予測。
日本付近では、これらの間で偏差が小さい。
北日本では湿った空気の影響をやや受けやすい。

想定される天候

北日本日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
北日本太平洋側、東日本、西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

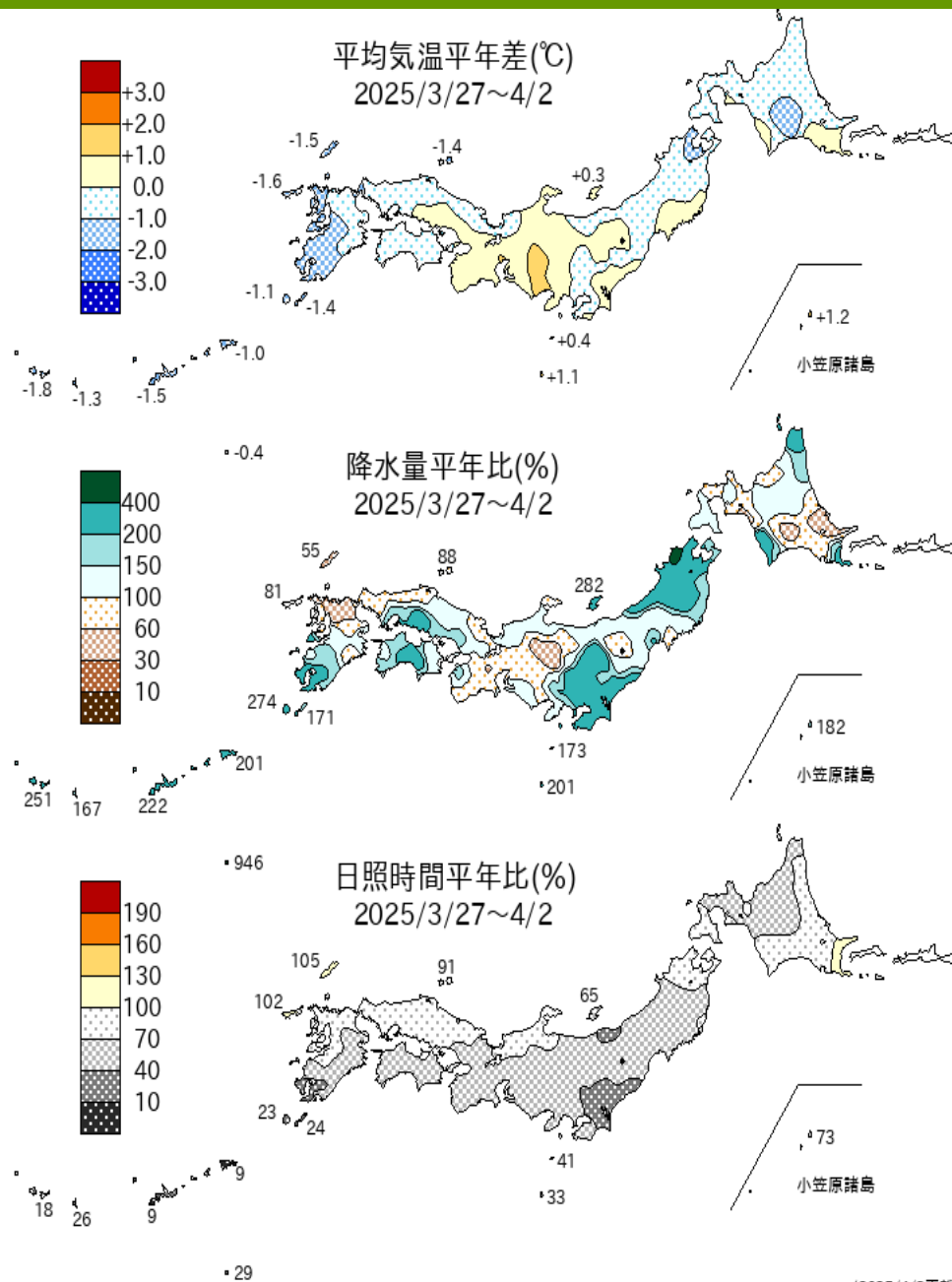
<気温>

・暖かい空気に覆われやすいため、北日本では高く、東日本では平年並か高く、西日本と沖縄・奄美ではやや高くなる。

<天候>

・北日本では、低気圧や湿った空気の影響を受けやすいためやや寡照だが、降水量はほぼ平年並。

最近1週間の天候経過



最近1週間(3月27日~4月2日)は、低気圧や前線の影響で曇りや雨または雪の日が多く、期間のはじめはこの時期として記録的な降水量となった所がありました。また、4月2日は関東地方で大雨となった所もありました。

気温は、期間のはじめは低気圧や前線に向かって暖かい空気が流れ込み、北日本の一部を除いて平年より高くなり、広い範囲でこの時期として記録的な高温となりました。一方、低気圧や前線が通過後には寒気が流れ込み、全国的に平年より低くなった所が多くなりました。期間内は気温の変動が大きくなりました。